

■シリーズ■ 中学校武道

授業の充実に向けて 98

複数種目授業の実践報告と課題 ⑫（柔道・相撲）

草加市立草加中学校 教諭 神田 研二郎

本校は、草加市の拠点校として市内最大規模の学級数（1年7学級、2年7学級、3年7学級、特別支援学級4学級、計25学級）と生徒数（1年252名、2年263名、3年266名、特別支援19名、計790名）を誇り、本年、学校開校70周年を迎える伝統校である。

体育施設は、体育館1階に柔道場と剣道場、2階に1000㎡のアリーナ（バスケットコート2面）、3階に観客席、また敷地内に相撲場（全天候型）が設置されている。また部活動が大変盛んであり、全国・関東、県大会に出場する部活動が多く存在する。そして全学年合わせて95%以上の生徒が部活動加入を果たし、教員の熱心な指導の下、日々練習を積み重ねている。

その恵まれた施設環境を生かした保健体育授業、部活動が行われている。また、研究委嘱として、平成6年に草加市・文部科学省委嘱武道教育推進校として研究発表を行った。最近では平成26年に埼玉県中学校体育連盟研究協議会にて、草加市として武道（柔道）における教材教具の工夫としてタブレットを活用した授業成果を発表した。

1

本校の実態

本校では、市内小学校を卒業した生徒は相撲を経験していることから、保健体育の武道領域について、柔道と相撲を自主的に選択（次年度で変更可能）させて、学習を行っている。これまで2種目の中でも特に柔道を選択する生徒が多かったが、最近では女子生徒が相撲を選択する傾向があり、土俵で活発に取組を楽しんでいる。

2

柔道授業実践

柔道の歴史から学習し、道着の着衣や立礼・座礼・座り方や立ち方の礼儀作法、基本的な動作の学習を行う中で、仲間との協働により主体的に学ぶ「アクティブ・ラーニング」を取り入れて展開している。

1年生では、受け身（前受け身、横受け身、後ろ受け身）を中心に学習し、自分の体を守ること、怪

我を主体的に防ぐことができるよう、意識と態度を育てている。また、固め技（袈裟固め、横四方固め、上四方固め）の型から学習し、効果的に技がかかるように資料やICT（情報通信技術）機器を活用した授業を実施している。1年生から少しずつ柔道のルールを学習し、必ず授業内で簡易試合を行い、成果や課題を明確にしている。

2年生では、組み方から体捌き、崩しを学習し、基本的な投げ技のまわし技系（体落とし、大腰）、支え技系（膝車、支え釣り込み足）を膝立姿勢といった低い姿勢から立位に移行して投げられるよう、段階的に学習している。

1年生同様、習得した技を使い、乱取りやかり稽古、約束稽古を通して、柔道の楽しさを実感させている。

3年生ではまわし技系、支え技系、刈り技系11技を学習し、さらに生徒が独自に得意な技を組み合わせて連絡変化を作成し、技の披露を行っている。また技の習得に合わせて乱取練習やかり稽古などを取り入れ、個人戦や団体戦を

実施して得意技が発揮できるよう指導している。加えて試合を通して明らかにになった課題克服の練習のためにICT機器を活用した学習を展開している。特に団体戦は5〜7名の本格的な試合として、レベルの高い熱戦が繰り広げられている。また1年生からルールを覚え、2年生から審判法を学習し、相手への敬意、礼儀作法とともに生徒が主体的に試合運営できるように学習している。

平成26年度埼玉県中学校保健体育研究協議会にて、「武道の特性に応じた効果的な学習指導の工夫」をテーマに、生徒一人ひとりを伸ばす「武道」学習指導の工夫、学習資料や教材・教具の工夫の柱であるタブレットを使用した「アクティブ・ラーニング」を取り入れた柔道授業の研究発表を行った。柔道学習は初心者が多く、段階的な指導が必要となるが、時間が限られていることから、技能を「その場ですぐ」に、「自分の目で見て」、「感じて」、「気付く」、そして「やってみる」、といったPDCAサイクルに基づくタブレット機器を活用した授業の成果を発表した。タブレットを使用することにより、生徒同士で技能ポイントやイメージをその場ですぐに確認し合い、「見比べて」、また正しい動作と自分の姿を「重ね合わせる」ことで協調学習ができ、学習意欲の向上につなげることができた。今年度から本校に電子黒板3台、タブレット10台が設置され、今後の活用にも期待ができる。

3

相撲授業実践

草加市では、青少年相撲振興会が中心となり、相撲の普及に取り組んでいる。草加市には幕内力士の遠藤が所属する追手風部屋がある。そして過去4回（昭和63年、平成5年、14年、20年）、大相撲草加場所が開催されていることから、市民の相撲に対する愛着と熱意が感じられる。

また、本年8月23日に、市民体育祭夏休み草加っ子相撲が本校の

土俵を会場として行われた。小・中学生を含めて390名が参加し、本校から15名の生徒が参加した。本大会は「子どもたちが、相撲を通して健全に育ちますように」との願いを込めて、昭和55年、草加小に元関脇・高見山関を招いたことに始まる、34年の歴史ある大会である。本年は田子ノ浦部屋の関脇・高安関をお迎えし、多くの児童生徒と触れ合った。高安関は、名古屋場所では横綱・鶴竜、大関・琴奨菊、豪栄道、照ノ富士を破る活躍、秋場所でも2横綱、2大関を破り、大活躍した。また本校出身力士である山響部屋の幕下・相山関も参加し、生徒と親交を深めていた。また市内の小学校全校に土俵があり、相撲環境は充実している。

行事としては、青少年相撲大会（6月）、県ジュニア相撲選手権大会出場選手練習会、草加っ子相撲大会（8月）、学校対抗相撲大会（11月）などの多くの大会や、小学校での相撲教室講師派遣事業として力士より直接指導をうけられる練習会を開催している。



女子生徒も積極的に相撲授業に取り組む



相撲授業



高安関と教頭の取組（市民体育祭夏休み草加っ子相撲大会）



相山関と女子生徒（市民体育祭夏休み草加っ子相撲大会）



股割り（相撲授業）



四股（相撲授業）

本校授業においては、生徒が小学生の時に全員相撲を経験していることから、柔道と相撲の選択制にしており、特別支援学級においても相撲授業が活発に行われている。

はじめに、日本相撲連盟HPやDVD教材「相撲実技入門」を活用し、「塵浄水」等の作法や精神を指導している。

1年生では基本的な動作として、蹲踞姿勢、塵浄水、中腰の構え、腰割り、四股、調体、受け身を、グループ活動を中心に安全に配慮して進めている。

2年生では基本となる技（押し、寄り、前さばき、投げ技）ができるようにし、基本動作と基本となる技を用いて、相手の動きに応じながら、押したり寄ったりするなどの攻防が展開できるようにしている。

3年生では、得意技を身に付けさせ、基本動作と基本となる技ならびに得意技を用いて、相手の動きの変化に応じて押したり寄ったり崩したりするなどの攻防が展開できるように、指導している。

また全学年を通して、毎時間必ず試合を行うことにより、生徒は練習の成果を発揮することができるとともに、課題も見つけることができる。生徒は土俵でまわし（簡易まわし）を身につけて稽古や試合をしているが、力士になったような立ち居振る舞いが見られ、見ている生徒も仲間を大きな声で応援して、授業に活気が見られる。現在は、相撲部はないが、市内相撲大会に有志で出場し、入賞している。その練習会には地域連携の取組として、市内在住の元力士が本校を訪問し、生徒に対して本まわしの着衣や技術指導をいただいている。

前述の本校を会場として開催された「市民体育祭夏休み草加っ子相撲大会」は、参加した生徒にとって、とても意義深い行事となった。初心者の生徒は「初めてまわしをつけて、思った以上にきつくて、こんなにきついものをつけて力士の人は力強い動きをしているのかと驚いた。土俵に立つと、力士の方が壁みたいにズドンと立っていて迫力があつた」、「力士の

迫力がやばく、投げ飛ばされました。痛かったです、良い体験でした」、「力士が思ったより強くて面白かった」などの感想が寄せられた。本物の相撲に触れることができ、大変興味を持った様子であった。

また、小学生の時に相撲大会に出場したことがある生徒は、「土俵でお相撲さんと相撲ができるなんて滅多にないので、もつとぶつかっておけばよかったと思います。力士と写真も撮れたし、握手もできたので運氣が上がるかも……」と力士を神聖なものとして見上げる感覚を持った生徒や、「これをきっかけに体育授業でもやりたい」、「相撲はスポーツだなど思いました。個人で戦う時は、練習期間が長く、あざがたくさんできましたが、相撲はやっぱ楽しいです。体育授業でも私は相撲をやりたいと思います」と相撲を再認識できた生徒もいた。

柔道と相撲の授業では、日本人がこれまで大事にしてきた精神、歴史や文化、礼儀作法、基本動作のそれぞれを、しっかりと意味を理解させ学習を進めることができた。授業を通じて生徒が学校生活に活かせる点が非常に多いことが特徴である。

また、競技独自の道衣に身を纏うことで気持ちが引き締まり、場に集中できる。さらに対人技能であるため、生徒同士のスキンシップが生まれ、コミュニケーションが活発になることが利点である。普段、話をしないような生徒も武道を通して友達と仲良くなる場面が非常に多く、全生徒に柔道と相撲の両方を履修できるようにさせていきたい。

しかし課題として、まだまだ関心が薄く、柔道と相撲を敬遠する生徒も多い。それは、両者とも相手の体と体をぶつけて行っていく

競技特性から、気温の低さによっては「寒い」、「痛い」と思ってしまうことが原因である。10月後半から12月初旬にかけて武道が行われる年間カリキュラムを改善し、気温が比較的安定し過ごしやすい気候（9月ごろ）に行えるように工夫したい。

また、柔道と相撲の学習を授業で終わらせるだけでなく、授業の成果を発揮させる場所として校外での大会の参加や、校内での大会開催も検討していきたい。さらに次期学習指導要領に向けてアクティブ・ラーニングや協調学習による学習方法の確立のための校内研修の充実、またICT機器の活用、工夫、成果と課題を実感でき、わかる授業を展開していきたい。

生徒が主体的に安全に配慮し、今後の人生で豊かな心と健やかな身体を持ち、たくましく生き抜く力を身につけさせるために、柔道・相撲のさらなる普及に努め、全力で指導技術の向上に取り組んでいく覚悟である。